

令和4年度事業報告

令和5年6月

公益財団法人利用運送振興会

令和4年度事業報告

はじめに

公益財団法人認定11年目を迎え、当該年度も財団設立趣旨に準拠した堅実な運営を実践し、物流博物館事業を推進してまいりました。

事業面では、令和4年度も新型コロナウイルス感染症蔓延防止の観点から、安全確保に留意しつつ博物館の運営に取り組んでまいりました。その結果、同感染症に対する社会的な対応の変化の影響もあり、5月以降は入館者数も逐次回復傾向を見せ、今日に至っております。

1. 令和4年度の事業経過の概況について

A. 重点推進項目の実施状況

令和4年度事業計画にもとづき、次の5項目を重点推進項目として取り組んでまいりました。

- (1) 特別展「没後20周年・生誕120周年記念特別展「物流」のパイオニア 平原直の生涯と思想」、及び創業150周年記念特別展「日本通運からNXへ—運ぶのりものでたどる150年のあゆみ」開催、令和5年度特別展の準備、常設展示の改良・催事の実施
- (2) 一般入館者および団体見学増に向けた広報活動の強化
- (3) 収蔵資料の整理・データ化の推進
- (4) 常設展示リニューアルの計画立案・実施
- (5) 運営資金の確保

(1) 特別展の開催、常設展示の改良・催事の実施

特別展「没後20周年・生誕120周年記念特別展「物流」のパイオニア 平原直の生涯と思想」及び創業150周年記念特別展「日本通運からNXへ—運ぶのりものでたどる150年のあゆみ」を開催しました。

感染症拡大防止の観点から、毎年恒例の催事のうち「美術品梱包講座」、「ペーパークラフト教室（日本内航海運組合総連合会との共催）」は開催を見送りました。「マンスリー上映会」は6～10・2・3月に開催、2・3月には初級者向け及び中級者向けの「古文書講座」をオンラインにて開催し、12月には「クリスマス・サンタクロース映画会」を参加人数を絞って開催しました。

(2) 一般入館者および団体見学増に向けた広報活動の強化

Twitter及びInstagramにより開館情報や常設展示の紹介、イベント情報、物流に関するミニ情報などの告知を行いました。感染症拡大防止の観点から積極的な広報活動は控えましたが、全国紙都内版、業界紙誌、鉄道趣味誌、タウン紙、催事案内のWEBサイトなどに当館の展示や催事の案内が掲載され、各方面で当館が紹介されました。また、引き続き一般来館

者向けにポイントカード制度を実施し好評を得ました。

(3) 収蔵資料の整理・データ化の推進

昨年度に引き続き、収集後、未整理となっている収蔵資料について資料整理に取り組み、収蔵資料目録のデータ化についても、これまで同様に進めてまいりました。

(4) 常設展示リニューアルの計画立案・実施

常設展示については、現代物流に関するデータ及び写真パネルを更新するなど定期的な展示替えを行いました。

(5) 運営資金の確保

事業実施に際しては効率的な運営を心掛け、費用節約に努めるとともに、特定資産の安全かつ効率的な運用に努めてまいりました。

B. 物流博物館の具体的な事業実施状況について

(1) 利用者数

a. 入館者数

令和4年度は、開館日数は253日となりました（対前年度97日増、62.2%増）。入館者数合計は8,263人で、前年度実績（2,909人）を184%上回り、予算（5,000人）を65.3%上回りました。開館日1日平均の入館者数は、前年度18.6人に対し、令和4年度は32.7人でした。また、令和4年度末時点の開館以来の累計入館者は195,689人となりました。

b. 団体見学者数

団体見学者数は、小学校2団体16名、中学校13団体97名、高等学校4団体55名、大学2団体28名、一般団体15団体169名、企業団体42団体310名、地域団体5団体44名で、団体数合計は83団体、団体見学者数は719名でした。

(2) 令和4年度に実施した企画事業等

a. 普及事業

① なつやすみダンボール工作コーナー

実施日・参加者数：8月6日（土）・43名／8月7日（日）・45名

対 象：幼児～小学校6年生（小学校3年生までは保護者同伴）

概 要：梱包資材であるダンボールを素材とした機関車・トラック・貨物船のキットを組み立て、色を塗るなど飾りつけを行い自分だけの運ぶ乗り物を製作。

参加費：材料費100円（入館料別途・小学生以下入館料無料）

② マンスリー上映会

概 要：当館では、昭和20年代～50年代の物流に関する映画フィルムを収蔵しており、ほとんどの作品がデジタル化されている。平成29（2017）年度以降、これらの中から映像作品を選び、上映会を毎月1回開催している。感染症蔓延防止のため、定員を従来の半数として実施。なお、4・5・11～1月は特別

展関連事業の映画上映会を開催のため実施せず。

参加者数：のべ64名

実施日・上映作品

- 6月26日(日)：「380トンジンボール」
「灼熱の大地で一日通IJPCの記録―」
- 7月31日(日)：「世界をむすぶ―国際―貫輸送―」
「ニューヨーク転勤命令―日通の海外引越―」
- 8月28日(日)：「作業教育シリーズ No.1 仕業点検」
「日本通運株式会社東京中央ターミナル」
- 9月25日(日)：「にっぽん23万KVAの旅」
「超重量に挑む 500トントレーラとシキ611」
- 10月16日(日)：「600トンフローティング・クレーン」
「オリンピックを運ぶ」(英語字幕付き)
- 2月26日(日)：「ビルと引越し」
「海と陸をむすぶ」
- 3月26日(日)：「富士をいだく」
「日通伊豆富士見ランド」
「花ひらく日本万国博 EXPO'70」

参加費：無料(入館料別途)

③古文書講座「古文書に親しむ ～はじめて学ぶ方へ～」(オンライン開催)

実施日：2月11日・25日・3月4日の土曜日(全3回)

概要：外部から講師を招き、典型的なくずし字の読み方や江戸時代の古文書のパターンに触れて、楽しみながら古文書に親しむ講座。令和4年度は館蔵史料の読解を通じ、古文書を読み解く楽しさを紹介。

講師：学習院大学史料館共同研究員 田中潤先生

参加費：1,500円

参加登録者数：34名

④古文書講座「近世在郷町の町役人日記を読む―地方豪商が書き留めた行政・社会世相―」(オンライン開催)

実施日：3月11日・18日・25日の土曜日(全3回)

概要：外部から講師を招き、物流に関わる歴史について、古文書の解読を行いながら解説する講座。令和4年度は江戸時代の上野国(群馬県)の在郷町(農村にある町場)、桐生の町役人が記録した役用日記を取り上げ、歴史教科書には記されない地方の在郷町の行政、運輸に関わる施策をはじめ、幕末の地方社会の具体的様相を紹介。

講師：歴史研究家 巻島隆先生

参加費：1,500円

参加登録者数：45名

⑤クリスマス・サンタクロース映画会

実施日：12月17日(土)(午前・午後全2回)

参加者数：こども13名＋保護者10名＝合計23名

対象：幼児～小学生(小学校3年生までは保護者同伴)

概要：プレゼントを「運ぶ」サンタクロースをテーマにした映画を2本上映し、子どもたちにプレゼントを贈呈。参加者の定員は従来の半分以下に制限して実施した。

参加費：無料(入館料別途)

⑥高輪伝馬の会

概要：高輪伝馬の会は、古文書講座(平成13年度～実施)の参加者のうち、講座終了後も継続して古文書読解を行うことを希望したメンバーにより、平成15年(2003)11月に発足した自主的な勉強会。当館の所在地高輪にちなみ名称を「高輪伝馬の会」とした。令和4年度はオンラインと録画配信、会場参加を併用して活動を継続。原則毎月第1・3土曜日に開催。令和5年3月現在の会員数は17名。

参加者数：のべ168名

b. 特別展示

①特別展「没後20周年・生誕120周年記念特別展「物流」のパイオニア 平原直の生涯と思想」

会期：2月5日(土)～5月8日(日) ※令和3年度実施分を含む

概要：戦前・戦中・戦後の激動の時代を通じ、一貫して荷役労働における人間の「苦役」からの解放をめざした平原直(ひらはら・すなお：1902～2001)。戦前から輸送現場に身を置き作業の機械化・合理化を提唱、戦後は月刊誌『荷役と機械』を38年間にわたり発行し、執筆や講演・教育活動を通じてパレット、フォークリフトなどの導入・活用をはじめ、荷役の近代化・物流理論の開発普及に尽力した。戦後の変革期を経て合理化された物流発展の礎を築いた先覚者として知られ、その影響は中国・韓国・台湾にも及ぶ。平原の思想は革新・合理化を主張しながら人間性尊重と公共性を前提とし、視線は常に変革によって失われていく技術や運ぶ姿、歴史にも注がれていた。平原が遺した膨大な著作や資料・写真・映像によりその足跡を振り返り、変動期といえる現在に通じる指針を見出そうとするもの。

共催：流通経済大学

後援：一般社団法人日本パレット協会・株式会社流通研究社

協力：日本パレットレンタル株式会社

会期中総入館者数：2,058名

関連事業

1) 講演会 講演会場での聴講のほか、オンライン配信有

a) 第1回「荷役近代化の父・平原直の生涯と思想」 ※令和3年度実施

実施日：3月26日(土)
共催：東京産業遺産学会
講師：玉井幹司

参加者数：会場9名、オンライン18名、録画配信5名

- b) 第2回「物流における荷役の役割と将来—変わる生活様式、変わらない物流の本質—」

実施日：4月24日(日)

講師：東京海洋大学名誉教授・流通経済大学元教授 苦瀬博仁先生

参加者数：会場12名、オンライン27名

- c) 第3回「小運送合理化に果たした平原直の役割」

実施日：5月5日(木・祝)

講師：城西大学准教授 河村徳士先生

参加者数：会場9名、オンライン18名

- 2) 映画上映会 ※令和3年度実施分を含む

*全プログラムで「荷役近代化への道—現場人はいかに闘ったか—」を上映。

- a) プログラムA

上映作品：「荷役はかわる—通運のパレット作業—」

実施日：2月13日(日)午前・午後、4月10日(日)午前

- b) プログラムB

上映作品：「欧米の貨物輸送作業」「トレーラーとのせかえ車」

実施日：2月27日(日)午前・午後、4月10日(日)午後

- c) プログラムC

上映作品：「荷役はかわる 第2集」

実施日：3月13日(日)午前・午後、5月3日(火・祝)午前

- d) プログラムD

上映作品：「荷役はかわる第三集ユニット・ロード システム」
「荷役は変わる—第四集システム化への道」

実施日：4月24日(日)午前・5月3日(火・祝)午後

会期中の映画会参加者総数：64名

- 3) 担当学芸員による展示解説スライドトーク

実施日：2月13日(日)・27日(日)・3月13日(日)・4月10日(日)
5月3日(火・祝)

会期中スライドトーク参加者総数：27名

②創業150周年記念特別展「日本通運からNXへ—運ぶのりものでたどる150年のあゆみ」

会期：11月3日(木・祝)～令和5年1月22日(日)

概要：NXグループは、江戸時代の飛脚問屋が集まって明治5年(1872)に設立した陸運元会社を起源とし、鉄道や汽船、トラック、航空機といった近代交通機関の発達とともに、大き

く姿を変えてきた。令和4（2022）年が創業150年にあたることを記念する本展では、貨物を輸送する「運ぶのりもの」の写真や資料、模型などを通して、グループの歴史をふりかえった。

会期中入館者数：2,225名

関連事業

1) 映画上映会

a) テーマ「高度経済成長期の日本通運」

実施日：11月27日(日) 午前・午後

上映作品：「躍進する日本通運」「創立二十五周年」
「この変貌の日に」

b) テーマ「日本通運における荷役の変化」

実施日時：12月25日(日) 午前

上映作品：「荷役はかわるー通運のパレット作業ー」
「荷役はかわる 第2集」

実施日時：12月25日(日) 午後

上映作品：「荷役はかわる 第三集 ユニット・ロード システム」
「荷役は変わるー第四集 システム化への道ー」

c) テーマ「日本通運の重量品輸送」

実施日時：1月9日(月・祝) 午前

上映作品：「380トンジンボール」「につぼん23万KVAの旅」
「超重量に挑むー500トントレーラとシキ611ー」

実施日時：1月9日(月・祝) 午後

上映作品：「ひとすじの道ー160トン変圧器を運ぶー」「榛名山
に挑むー100万ボルト送電／変圧器輸送の記録ー」

映画上映会参加者数：49名

c. SNS

①Twitter(ツイッター) @butsuhaku

令和2年6月より開始。令和5年3月現在、フォロワー数は2,410。

②Instagram(インスタグラム) @cargo_kun

令和3年9月より開始。令和5年3月現在、フォロワー数は83。

d. 外部協力

①共催事業

1) 巡回展示

「没後20周年・生誕120周年記念「物流」のパイオニア 平原直の生涯と思想」展

共催団体：流通経済大学

実施日：5月18日(水)～5月31日(火)

会場：流通経済大学新松戸キャンパス1号館1階講堂横ホワイエ
概要：特別展「物流のパイオニア 平原直の生涯と思想」で展示

したパネルに追加パネルを加え巡回展示を行った。

2) 齋宮歴史博物館令和4年度春季企画展

「鉄道模型で見る懐かしの鉄道輸送－貨物・荷物・郵便－」展

主 催：齋宮歴史博物館

実施日：4月23日(土)～6月19日(日)

概 要：鉄道開業150周年を記念して鉄道輸送を紹介した同館の企画展示に際し、写真や鉄道関係の実物資料を貸出した。

②学芸員の出講・執筆

1) 高輪図書館分室工作会「段ボール工作で蒸気機関車を作ろう！」へ出講

主 催：高輪図書館分室

会 場：高輪子ども中高生プラザ4階多目的ホール

開催日：10月2日(日)

概 要：小学生向けイベントに出講。鉄道開業150周年にちなみ、関連スライド・映像を上映し段ボールの蒸気機関車を作成。

担 当：三田芳美・玉井幹司

2) 全国通運連盟寄附講座へ出講

主 催：公益社団法人 全国通運連盟

実施日：9月28日(水)・10月5日(水)

会 場：流通経済大学

概 要：全国通運連盟寄附講座全14回のうち第1回、第2回を担当。「物流と通運の歴史」と題して江戸時代の交通・運輸制度から明治以降の鉄道貨物取扱業の歴史、近年の概況までを講義。

担 当：玉井幹司〔第1回〕、森田耕平〔第2回〕

3) 全国通運連盟全国大会へ出講

主 催：公益社団法人 全国通運連盟

実施日：2月9日(木)

会 場：パレスホテル東京

概 要：第16回鉄道利用運送推進全国大会・特別講演として「通運事業150年の歴史を考える」と題し講演。

e. 資料公開

①資料館外貸出

1) 双頭式60ポンドレール、宅扱ポスター、鉄道錦絵など19点

展示期間：4月23日(土)～6月19日(日)

会 場：齋宮歴史博物館

概 要：齋宮歴史博物館令和4年度春季企画展「鉄道模型で見る懐かしの鉄道輸送－貨物・荷物・郵便－」にて展示

2) 伝馬朱印状、御朱印非常持出箱、東海道桑名宿助郷帳など9点

展示期間：1月14日(土)～2月26日(日)

会 場：桑名市博物館

概 要：桑名市博物館特別企画展「家康と千姫」にて展示

f. マスコミ掲載（主なもの）

①掲載

1) 新聞・雑誌

『散歩の達人』7月号（No.317）2022年6月発行「品川・大井町・大崎」に常設展示が紹介

『日本経済新聞』2022年5月7日夕刊「企業博物館で歴史学ぶ」に常設展示が紹介

2) ウェブサイト等

「mamaT+(ままでいふらす)」【GW】働く車好きな男の子向けおでかけスポット「乗り物・仕事について学ぼう！」（4月29日）

「Tokyo Gov」（8月31日）※東京都庁の海外向けSNS

3) 放映

「これが弊社のお宝映像」

8月5日 22:00～22:59 ・ 8月9日 23:00～23:59（NHKBSプレミアム）
当館収蔵の映像作品「300 トントレーラー」「荷役近代化への道」「ト
レーラーとのせかえ車」が紹介

「号外！日本史スクープ砲」

9月4日 21:00～22:00（BS松竹東急）

「飛脚」の特集にて取材協力及び常設展示等紹介

②取材協力

1) 新聞・雑誌

『月刊 NEWS がわかる』2022年10月号（通巻281号）

「絵図でわかる物流の歴史」

『朝日新聞』10月3日夕刊「まちの記憶 汐留かいわい」

『朝日新聞』11月12日朝刊

「サザエさんをさがして 馬車輸送 戦後経済復興にも貢献」

(3) その他

a. 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対応

①展示室内体験コーナーの休止

物流会社の制服着用体験、飛脚に変身、ふろしき包み体験、段ボール工作、カーゴ君ぬりえ、物流タウンシート、はこぶ絵本閲覧、物流ジャンボパズル、貨物列車のおもちゃは中止した。運びくらは再開。

②団体見学の受け入れ中止と人数の制限

団体見学は平日のみ受け入れ、1団体最大15名までとする制限を設けている。

③一部の普及事業の開催を見送り

1) 学生向け体験講座「美術品の梱包・入門（陶器）編」

2) 講座「内航船ペーパークラフトを作ろう！」

(日本内航海運組合総連合会との共催事業)

④施設利用の人数制限 最大 15 名までとした。

※その他、来館者には体調不良時の来館自粛、マスク着用をお願いし、館内には消毒液の設置、三密回避の為に床ライン表示、券売機・タッチペン・マウス等共用部分の定期的な消毒を行っている。

b. 鉄道史学会住田奨励賞の特別賞（展示企画等）を受賞

同賞は、同学会が鉄道史研究の進展に寄与する優れた業績に対し、年に 1 回授与するもの。受賞理由は、物流博物館が開館以来進めてきた歴史的資料の保存と公開、ならびに企画展・特別展の開催が、鉄道史学の発展に大きく寄与する価値あるものと認められたことによる。

C. 寄附金の收受実績について

(1) 物流博物館等維持会正会員各社・準会員各社による寄附

大変厳しい経済環境下、日本通運(株)殿を始めとする維持会正会員 8 社の絶大なご理解により合計 28,000 千円のご寄附を賜りました。

準会員については、一般公募（NXグループ関係各社以外）13 社から合計 13 口 390 千円、NXグループ関係 25 社から合計 49 口 1,460 千円、合計 38 社、62 口 1,850 千円のご寄附を賜りました。また、今年度新たに日通鹿島輸送(株)殿に、準会員としてご入会いただきました。

以上、正会員 8 社・準会員 38 社、合計 46 社による寄附合計額は 29,850 千円（対予算 150 千円減、対前年度実績 210 千円減）となりました。

D. 令和 4 年度収支の状況

(1) 収支状況

経常収益計は 37,564 千円で、予算（36,218 千円）に対して 1,346 千円増（3.7%増）、前年度実績（36,017 千円）に対して 1,547 千円増（4.3%増）となりました。対前年実績増の要因は、事業収入、受取補助金（事業復活支援金）の増によるものです。

経常費用計は 49,903 千円で、予算（53,134 千円）に対して 3,231 千円減（6.1%減）、前年度実績（48,141 千円）に対して 1,761 千円増（3.7%増）となりました。対前年度実績増の主な要因は、光熱水料費、委託費の増です。

(2) 運用手元資金

令和 5 年 3 月 31 日の手元資金は、730 百万円で、内訳は次のとおりです。

(百万未満は切り捨て)

	令和 5 年 3 月末	令和 4 年 3 月末	令和 3 年 3 月末
国債	354 百万円	350 百万円	350 百万円
政府保証債	100 百万円	100 百万円	100 百万円
社債	202 百万円	202 百万円	102 百万円
定期預金	41 百万円	41 百万円	181 百万円
普通預金	32 百万円	30 百万円	47 百万円

合 計 730 百万円 724 百万円 781 百万円

(3) 正味財産

令和5年3月31日現在の正味財産は以下のとおりです。

令和5年3月末 令和4年3月末 令和3年3月末
2,260,738,926円 2,273,077,383円 2,285,200,989円

※正味財産減の主な要因は平成18年度からの固定資産減価償却
(当期償却額 16,919,474円) によるものです。

以 上